

令和8年度 出雲サンホーム地域連携推進会議 議事録

日時：令和8年9月16日（水）10：00～12：00

場所：出雲サンホーム会議室

出席者：小村様（地域代表 神西コミュニティセンター センター長）、佐藤様（出雲市役所 福祉推進課）、神村様（入所者家族）、太田様（入所者家族）、錦織様（入所者）、竹内様（入所者）浅津施設長、浅津主任（サービス管理責任者）、足立副主任（理学療法士）野口（介護職員）

会議内容

1. 開会の挨拶（浅津施設長）

地域連携推進会議の目的について説明

2. 構成員紹介

地域・ご利用者・ご家族・行政担当者計6名の地域連携推進員と事務局側4名の自己紹介

3. 施設概要・事業等の紹介

パワーポイント・資料を基に報告・説明

1) 概要等

- ① 社会福祉法人恵寿会・出雲サンホームの沿革・事業内容の説明
- ② 理念・基本方針を説明
- ③ 利用者の状況

・開設から40年が経過。現在は定員の60名満床で、年齢層も幅広く最高齢者は90代である。

2) ご利用者の生活の様子、取り組み紹介

① 1日の生活の様子

・1日の生活の流れを説明。食事・入浴・リハビリなどの他、活動やクラブ等それぞれのペースで過ごされている。

② 生活環境

・居室は個室、多床室があり、サンガーデンでは食事、ティータイム、余暇時間で沢山の利用者が集まられている。

③ 取り組み

・ご利用者の希望を把握しながら、創作・スポーツ・クラブ活動・外出などの活動機会を提供している。
・イベント食では焼肉会やそば打ち、船盛の刺身等を提供し、利用者の皆さんも非常に喜ん

でおられる。

- ・毎月西高インターアクト部の皆さんがボランティアで来所され喫茶を開いて下さり、利用者の方々もとても楽しみにしておられる。

- ・昨年の改修時、シアタールームを整備した。平日は毎日スケジュールを組んで映画やカラオケ、ライブ等放映し、大きな画面で鑑賞し楽しまっている。

3) 職員の状況等

- ・勤務している職員の職種や年齢・勤続年数の構成などグラフを用いて説明を行った。
- ・施設内では介護職、看護師、管理栄養士、セラピスト（理学療法士・作業療法士）等多職種が連携を図りながらご利用者の支援に当たっている。

- ・職員の教育・育成としては、エルダー制度を導入。エルダー制度の目的や役割などの説明を行った。

- ・新職員育成カリキュラムや現任職員の研修、腰痛予防やヨガ研修など年間でスケジュールを立て取り組んでいる。

- ・ICTの活用について、見守りシステムの利用や職員の連絡手段としてインカムを使用し業務の省力化と効率化を図っている。

4) 地域交流・地域貢献

①地域交流

- ・サンサン保育園の園児の皆さんがハロウィンの踊りや歌を披露して下さったり、ひな祭り抹茶会として抹茶を提供して下さり、可愛い子供たちを見て皆さん喜ばれている。

②地域貢献

- ・地元の高校生を対象とした介護教室や夏休みを利用し、こども福祉教室などを実施し、介護や福祉への興味や理解が深まるような活動に力を入れている。

- ・法人としてボランティアの担当を設置し、地元のまつりや文化祭などで大判焼きを作成・販売する機会がある。

5) 権利擁護

- ・職員の倫理規定・行動指針を示し、職員一人ひとりの人権意識や理解が深まるよう研修や定期的に自己を振り返る機会を設け取り組んでいる。

6) 防災対策

- ・BCP 事業継続計画を策定し、緊急時の災害の際の対策、対応、他施設や地域との連携を定め、計画に基づいて訓練を行っている。

4. 資料についての質疑応答

○質問

- ・災害や地震が増えているが、災害時の協力体制は？

→中四国の別ブロックからの支援、協力体制は組織化しており、いざという時の協力体制は整っている。

・水害や豪雨が増えているが、今まで浸水したことはあるか？

→改修前は排水が悪く水が入って来たことが何度かあるが、改修し改善されている。

・1月の地震は大きかったが、被害や利用者の方の様子はどうだったか？

→大きな地震で職員もどうしたら良いか分からないような状況もあり、当日出勤していた職員から色々と聞き取りを行ってマニュアルや対応について考えた。改修後で耐震化の面では安全なので、寒い中外に避難することはせず広い場所で集まってもらった。ベストな対応については悩むところだが、今後も状況に応じて対応を検討しなければならないと感じる。災害対策のマニュアルもあるが、改修もあった為見直しを行ないながらより良い対応を考えていきたい。

・介護ロボットの導入などはどうか？

→福祉機器も広義な意味でロボットに入るのであれば色々な種類の機器を導入している。(リフター、パソコンとタブレットの連動情報管理、見守りセンサー、見守りカメラ等)

・災害があった際の DWAT 等の登録など相互関係にあるか？

→DWAT は法人内3名の職員が登録している。サンスマイルからはケアマネが近々熊本の被災地に向かう予定である。今後の災害時の対応について必要性を感じている。

○感想

・(利用者) この前の雨も大丈夫か？と思ったが、中に居れば雨音も聞こえないし、施設がしっかりしているから大丈夫だなと思った。1月の地震では入浴中で裸だった為怖かったが、揺れが止んですぐに職員さんが出してくれた。

・(利用者) 今まで色々なことがあったが、大雨が降った年は心配だし怖かった。

5. 施設見学

・居室、廊下、トイレ、訓練室、浴室、食堂、職員休憩室、シアタールーム等館内を回り、器具、設備も説明をしながら施設見学を行った。

居室…部屋によっては、天井リフターを設置。

トイレ…身体状況に応じて洋式・座敷トイレを各エリアに設置している。一部のトイレにもリフターを設置。

浴室…2種類の機械浴(ストレッチャー・チェアインバス)を使用。ご利用者は週2回の入浴に対応し、水曜日以外は浴室を使用している。

通所(在宅の生活介護ご利用者)スペース…感染症対応等も考慮し、入所ご利用者と異なるエリアで受け入れを行っている。(行事等によっては一緒に参加される)

短期入所事業もこのエリアで受け入れを行っている。見守りカメラについても説明した。

6. 意見交換(見学を終えて)

○質問

・地域との関わりや課題など、市と一緒に動いて欲しいこと等ないか？

→（利用者）利用者の皆さんはよく外出もされ、自分も介護タクシーを使って外出をする。タクシーを使うまでもない近場のゆめマート等への外出で見守りのボランティアさんがいると嬉しい。

○意見等

- ・施設内を見学を行い、体制が整っているのを見て勉強になった。
- ・普段見る事の出来ない場所も見学させて頂き、シアタールームや歯科往診のリビングも見て驚いた。家族も安心して過ごさせてもらっている。家族会の活動も近年出来ていないので、何かお手伝い等お知らせしていただけると良い。
- ・入所して半年経つ。職員さんも一生懸命で大変だと思うけど良くしてもらっていて困った事はない。
- ・地域の方がタオルの寄付等されているのは聞いたことがあるが、利用者さんの声を聞いてボランティアのニーズにも色々あると気付かされた。色々な所に情報を提供し、ニーズを伝えたい。地域として出来ることがあれば手伝いたいし、コミュニティセンターも日々まつりやサロン等でお世話になっているので関係性を大事にしていきたい。
- ・以前は調理クラブに来所頂いていたボランティアの方も居たが、コロナ禍で一度関係性がなくなってしまった。利用者からもまたやりたいとの希望もあり、外部の方に施設を知って頂くことも出来るし、調理クラブに限らずシアタールームを使用して頂いたりコロナ禍でなくした地域との関係をまた積極的に作っていきたい。

6. まとめ

- ・今年度で2度目の会議だったが、議長の司会にて和やかな雰囲気の中、活発な意見交換もあり色々な意見を聞くことが出来た。10月にはSUNフェスもあり、地域の方々を招いて色々なイベントを行う予定である。施設を知ってもらい、今後の地域との繋がり、関係作りを図り、利用者へのサービスの質の向上へとつなげていきたい。